

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 26 年 5 月 15 日 (2014.5.15)

【公開番号】特開 2013-222684 (P2013-222684A)

【公開日】平成 25 年 10 月 28 日 (2013.10.28)

【年通号数】公開・登録公報 2013-059

【出願番号】特願 2012-95604 (P2012-95604)

【国際特許分類】

H 0 1 R 24/38 (2011.01)

【F I】

H 0 1 R 24/38

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 3 月 25 日 (2014.3.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

図 7 は、同軸ケーブルの中心導体 C 1 を接触部 3 0 4 に載置した後に、外蓋部 1 1 2 を途中まで屈曲させた図である。外蓋部 1 1 2 を屈曲する際に、外蓋部 1 1 2 における平蓋部 1 3 6 からの押圧力を受けて、外蓋部 1 1 2 と共に中蓋部 2 1 2 が屈曲される。また、図 8 に、図 7 の A - A 切断面における断面図を示す。図 8 に示されるように、同軸ケーブルの中心導体 C 1 の誘電体等が剥がされて剥き出しとなった部分 C 1 1 の下方には、端子 3 0 0 の接触部 3 0 4 及び絶縁座 2 0 0 の座部 2 3 2 の中心導体案内面 2 3 6 がある。一方で、同軸ケーブルの誘電体 C 2、シールド線 C 3 及び外皮 C 4 は、絶縁座 2 0 0 のケーブル延伸方向外側に位置している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

さらに、外部導体 1 0 0 の外蓋部 1 1 2 (特に、平蓋部 1 3 6) が筒状部 1 0 4 を覆うように倒される際に、その屈曲部を屈曲させる。その際に、外部導体 1 0 0 における平蓋部 1 3 6 によって、絶縁座 2 0 0 の中蓋部 2 1 2 の外面に押圧力が印加される。そして、中蓋部 2 1 2 は、該押圧力を受けて、中蓋部 2 1 2 の内面 (すなわち押圧面) と、端子 3 0 0 の接触部 3 0 4 の上面 (すなわち、中心導体 C 1 を支持するための支持面) との間で同軸ケーブルの中心導体 C 1 を挟圧する。その後、固定部 1 4 8 によって、保持腕 1 0 8 を包囲して、外蓋部 1 1 2 が開かないように外蓋部 1 1 2 の位置を固定する。さらに、シールド線カシメ部 1 5 6 によってシールド線 C 3 をカシメ包囲して、シールド線 C 3 と外部導体 1 0 0 の電氣的接続を確保する。また、外皮カシメ部 1 6 8 によって外皮 C 4 をカシメ包囲して、同軸ケーブルがコネクタから外れないように固定する。上記のように、中心導体 C 1 は、挟圧され、シールド線 C 3 及び外皮 C 4 は、カシメ包囲されて大きく変形するが、シールド線から露出している誘電体 C 2 は、大きく挟圧されることもカシメ包囲されることもなく、同軸ケーブルがコネクタに固定された状態であっても大きく変形することがない。従って、コネクタ接続時のケーブルのインピーダンス等の電氣的特性の変化が少ない。

